

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 気になる税

いわき市立久之浜中学校 3年 大森 葉月

「独身税」初めてその言葉を耳にしたとき私の頭の中にはいくつかの疑問符が浮かびました。「独身であることに税金がかかるなんて…」と。しかし、同時に漠然とした不安もよぎりました。もしかしたら、本当にそのような税が導入される日が来るのだろうか。そんな思いから、私は「独身税」について調べてみることにしました。

当初の私の目的は、「独身税」の真偽を確かめることでした。調べてみると、どうやら日本において「独身税」というものが実際に導入されたことはなく、現在検討されているという公式な情報もないことが分かりました。一部の国で過去に独身者に対する課税が検討されたり、あるいは結婚・子育てを奨励するための優遇措置が「独身税」のように捉えられたりするケースがあるようですが、少なくとも日本では都市伝説のようなものと理解し、まずは安堵しました。

しかし、私の興味は「なぜこんな独身税という言葉がまことしやかに囁かれているのか」という点に移っていきました。そこには、少子高齢化や税収の減少といった社会問題が背景にあるのではないかと、推測が生まれました。そして、その推測を裏付けるように、インターネット上には様々な税金に関する情報が溢れていることに気づかされました。

所得税、消費税、住民税…。私たちの生活の中には、税金によって支えられていることを認識しました。それぞれの税金がど

のような目的でどのように使われているのかを知るにつれて、その役割の重要性を実感するようになりました。

税金は、道路や橋の整備、公共施設の維持管理、医療や福祉サービスの提供など、私たちが安心して暮らすために不可欠な公共サービスを支える財源です。税金を支払うことは社会の一員としてより良い社会を築いていくための「義務」であり、同時に「貢献」でもあるのだと考えるようになりました。

以前の私は、税金に対してどこかネガティブな感情を抱いていました。「どうしてこんなに高いんだろう」「もっと安くないかな」と、自分から「取られるもの」という意識が強かったのです。しかし、今回の一連の調査を通して、その心境は大きく変化しました。税金は、社会の恩恵に対する「対価」であり未来への「投資」であるというポジティブな側面が見えてきたのです。

「独身税」という一つの言葉から始まった私の探求は、税金を通して、私自身の社会に対する意識を大きく変える経験となりました。これからは税金がどのように社会貢献しているのか意識していこうと強く思います。そして社会に対して「私たちがより良い社会を築くために、税金はどのようにあるべきか」という問いを投げかけるようになりたいと、願っています。